



短期大学部創立60周年記念

編入と就職を両輪に 教養系短期大学としての 存在意義を深める

時代と共に変化する 短期大学の姿

龍 本学部は60周年を迎えるわけですが、設立当初は学生集めに苦労していたようです。50周年の際に記念冊子発行に関わられた谷先生なら詳しいでしょう。

谷 短期大学(女子)文科としてのスタートだったのですが、当時の短期大学に社会が求めているのは家政学が中心で、教養系の学部学科へのニーズが極めて少なかったようです。そこで2年後に生活科を増やし、学生も集まるようになりました。

龍 それでも当時の文部省からは、設けるなら家政科にしろと指導されたとか。でも技能や資格を主目的にはしたくないと、教養系と

いうスタンスを貫き生活科にしたのですよね。
谷 はい。設立時から、当時の他の短期大学とは一線を画していたわけです。1970年代あたりから文科の学生が急増し、2000年代に入ると生活科の学生が減少が目立つようになります。そこで2005年にライフデザイン総合学科として二本化しました。そこからライフプランニングとキャリアプランニングが基幹カリキュラムになっていきました。ここ10年ほどで医療事務やファイナンシャルプランナーなど多くの資格も取得できるようになりましたが、専門学校化をめざしているわけではありません。

特別聴講制度で 4年制大学の講義を受講

龍 ライフデザイン総合学科という学科名ですが、お2人はどう思われましたか。
村瀬 正直言つて、何を学ぶ場所なのかよくイ

村瀬 努力して掴み取った編入なので、より多くのものを吸収して自分の血肉とできるよ
う、さらに頑張りたいと思います。

近藤 尾張北部の自宅から豊橋まで通学時間が片道2時間と長かったのですが、編入後は名古屋になり時間の余裕ができます。これまであきらめていたサークル活動など、キャンパスライフを楽しみたいと思います。勉強もそれ以外も、より充実させたいと思います。本学部での2年間は、人生の分岐点に立ち、頑張った、あきらめなかった、私には濃くて長い2年間でした。その自信があるから、編入後も頑張れると思います。

卒業研究は編入後 アドバンテージに

龍 さて全国的に短期大学は減少傾向にあります。そんな中、本学部の意義を、谷先生はどうお考えですか。
谷 4年制大学に進学する場合、高校生のうちに

大学での専攻を選ばなくていいですね。やりたい事が決まっている方には良いのですが、まだ手探り状態の方には難しい選択となります。でも本学部なら、学びながら自分のライフデザインを描き、卒業後に4年制大学へ編入しさらなる専門教育を受けるか、就職あるいはその道の進むか、2年間じっくり考え選ぶ事ができます。卒業生の編入と就職の比率は2:8程度です。
龍 確かにそこは教養系短期大学としての大きな特徴です。

谷 今年度は本学部の一般入試の志願者が大きく増加し、413名(前年度比157%)の出願があり驚かされました。4年制大学との併願者が特に増えています。少子化を受けて

メッセージできませんでした。

近藤 私は編入目的での入学だったので、受験時は気にしませんでした。4年制大学の受験に失敗し、それでもあきらめきれなくて本学部を選んだので。入学してから、自分の学びたい事が学べる場所なのだと思い、凄いなと気づきました。私の場合それは英語でしたが、日本語でも何でも良い。目標がまだ見えない高校生、短期間に専門的に何かを学びたい高校生にお勧めします。

村瀬 4年制大学に通う時間と費用が足りないという方にも向いていると思います。豊橋キャンパスは本学部と4年制大学が共用しており、図書館などの施設も同じなので、高いレベルの学びができます。特別聴講制度を使えば、4年制大学の授業を受ける事ができますし、4年制大学の先生に話をうかがう事もできます。
谷 特別聴講制度は編入目的の学生はもちろん、そうではない学生にも好評です。幅広い事柄に興味があつて受ける方、せっかくの制度だから使わなければ損だと思う方も多いようです。

村瀬 私は入学前に目標はあつたけれども、そこに絞つていいのか自信が持てなくて、塾の先生などのアドバイスを受け、自分探しも兼ねて本学へ入学しました。ここで社会学と出会え、2年じや学び足りないと思うようになり編入を決めました。素晴らしい出会いだったと思います。

4年制大学が合格者を絞つており、本学部が用意する編入の道が改めて注目されているのかと考えています。愛知県内で短期大学が急速に減少している影響もあるのでしょうか。
龍 卒業研究を必修にしている点、特別聴講制度など、短期大学らしくない点に魅力を感じる方も多いようです。編入されたお2人は卒業研究に対してどのような感想をお持ちですか。

村瀬 1年掛けて必死で取り組みました。一つのテーマを突き詰めて研究し、推論し、論文という形にまとめるのは初めての経験で、辛かったです。たいへん面白かったです。
近藤 私とはかく楽しかったです。タトゥーをきっかけに日本と海外の文化や価値観の違いを掘り下げました。すべて英文で書き上げたのですが、完成できた自分に驚きます。

谷 卒業研究の経験は、4年制大学での卒業論文制作時にアドバンテージとなります。愛知大学という枠の中で本学部と4年制大学は良好な繋がりを構築しています。これはアイデンティティとして、新学部長である龍先生にも守つてほしいと思います。
龍 もちろんです。この方向性には地域社会のニーズも感じています。最後にお2人から本学部の後輩達に向けてメッセージをお願いします。

村瀬 環境と先生がこんなに充実しているのだから、フル活用してほしい。受け身でなく、自分から動くこと！
近藤 入学時に編入希望のガイダンスに参加した人は80人もいたのに、2年の夏のガイダンスに参加したのは30人。自分から未来を閉ざすなんて、もったいないですよ。あきらめないで前進してください！

谷・龍 今日はありがとうございました。
近藤・村瀬 ありがとうございます。



前短期大学部長
谷彰 教授

2019年3月卒業
(2019年4月文学部人文社会科学科編入学)
村瀬友美さん

2019年3月卒業(2019年4月
国際コミュニケーション学部英語学科編入学)
近藤幸歩さん

短期大学部長
龍昌治 教授

「主体性」「生涯学習」を 人生の糧に

近藤 先生方は、学生たちに2年間をどう過ごしてほしい、どう巣立つてほしいとお考えなのですか。

谷 本学部の教育目標の一つに「主体性」というものがあります。学問はもちろん友人関係など、すべてにおいて自分で考えアクションをする、そんな姿勢やノウハウを身につけてほしいと思います。また私のゼミでは、自分で見つけた卒業研究テーマならすべてOKとしています。小説を書いても、漫画の研究でも、もちろん社会に出た後も主体性を持って生きてほしい。

龍 これも本学部の教育目標の一つなのですが「生涯学習」の基礎を身につけてほしいと考えています。私の専門は情報教育ですが、マニュアルに書いてあるようなコンピュータの操

作はあえて教えません。コンピュータを使つて何をしたいのか、何を伝えたいのかを、考え抜いてほしいのです。確かな基礎があれば、ツールや社会が変わっても対応できます。お2人にも社会でやりたいことがありますよね。

近藤 いくつもの道を考えているのですが、一番の目標はエアラインで働くことです。最近ホテルにも魅力を感じています。どれも語学を活かせる、国際性豊かな仕事です。また日本に留まらず世界で働き、グローバルな人材になりたいという夢もあります。そのために海外研修には積極的に参加しましたし、受けられる講座は積極的に受けてきました。

村瀬 私は卒業研究で児童の不登校をテーマにしている、地元の教育支援センターにボランティアで参加していました。将来どんな仕事に就くかはまだ決めていませんが、社会人となつてからもそのような活動は続けていきたいと考えています。

谷 その経験も社会で役立つはずですよ。ところで4年制大学に編入するお2人は、これから2年間をどう過ごしたいとお考えですか。